

令和6年2月7日
教育民生委員会協議会資料②
教育委員会事務局 市民スポーツ室

名張市スポーツ推進計画
(改定案)
2016（平成28）年度
～2025（令和7）年度

2024（令和6）年4月改定
2019（平成31）年4月改定
2016（平成28）年4月策定
名張市教育委員会

はじめに

名張市では、2016（平成28）年4月に「名張市スポーツ推進計画」を策定し、市民の誰もが生涯を通じて気軽にスポーツを楽しむことができる豊かな生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツ振興の施策に取り組んできました。

近年、人口減少や少子高齢化の急速な進行、市民ニーズの多様化、新型コロナウイルス感染症の影響など、スポーツを取り巻く社会環境が大きく変化しています。

そのような中、本市では、2023（令和5）年3月に名張市総合計画「なばり新時代戦略」を策定し、「ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動の充実」や「スポーツ活動を通じたまちづくりの活性化」など、生涯スポーツができる環境をととのえることを施策に掲げ取組を進めているところです。スポーツは心と体の健康づくりだけでなく、生きがいづくりや地域経済の活性化、豊かな人間関係づくりなどに期待されています。さらには、年齢や性別、障がいの程度にかかわらず、誰もがスポーツを通じて相互の交流やコミュニケーションを深めていくことで、お互いの理解が促進され、共に生きる地域共生社会の実現にもつながるものと考えます。

このような背景を踏まえ、あらゆる世代の皆さんがスポーツに親しむ機会の拡充やスポーツを支える担い手の確保、スポーツを通じた健康づくりの取組など、市民誰もがよりスポーツに親しむことができるよう本市のスポーツ施策の行動計画である本計画の改定を行います。

最後に、本計画の改定に当たりご尽力いただきました名張市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提言をいただきました多くの皆様に、心からお礼を申し上げます。

2024（令和6）年4月

名張市教育委員会
教育長 西山嘉一

目 次

第1章 計画策定の趣旨	4～5
1 計画策定の趣旨	
2 計画の位置付け	
3 計画期間	
第2章 名張市のスポーツの現状と課題	6～15
1 名張市の人口	
2 スポーツ活動状況	
3 市民意識調査	
第3章 目標と取組	16～25
1 基本目標	
2 基本取組	

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の趣旨

本市では、2016（平成28）年に名張市スポーツ推進計画を策定し、誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現していくため、市民をはじめ、スポーツ関係団体や地域づくり組織などと連携・協働し、スポーツの振興を図ってまいりました。

また、第76回国民体育大会「三重とこわか国体」（以下「三重とこわか国体」といいます。）開催後の2022（令和4）年には、県下のスポーツ情勢を踏まえ、計画内容の見直しを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、三重とこわか国体の開催が中止され、スポーツを取り巻く環境が大きく変化したため、見直しの時期を2023（令和5）年に変更しました。

今回の見直しにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響等、スポーツを取り巻く社会環境の変化への対応に関する記述の追加とともに、2023（令和5）年に策定した名張市総合計画「なばり新時代戦略」（以下「総合計画」といいます。）の行動計画として改定します。

2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条第1項に基づくスポーツの推進に関する計画であり、総合計画（計画期間：2023（令和5）年度～2032（令和14）年度）に示すスポーツ分野の施策を具体化する行動計画として位置付けます。



ととのえる 生涯スポーツができる環境をととのえます



この施策で目指すもの

生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

そして、利用者のニーズを把握しながら、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に進めていきます。

また、スポーツ技術の向上や競技スポーツ人口の拡大を図るため、各種大会の開催や指導者の育成などに努めます。

取組の内容

- ▶ ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動の充実に取り組みます
- ▶ スポーツ活動を通じたまちづくりの活性に取り組みます

現状と課題

- 新しい生活様式の中で、利用者等全ての関係者が安心・安全で継続してスポーツ活動が可能となるよう、また、スポーツイベントが開催できるよう、体育施設の維持管理に取り組む必要があります。
- 名張市体育施設の整備（市総合体育館、市民陸上競技場、名張市民プール（ろ過機・更衣室等）、照明施設のLED化等）を利用状況に即した中で、効果的・効率的に取り組む必要があります。
- 新たな総合型地域スポーツクラブの創設につなげていくため、市内の未設置地域において、アプローチを進めていく必要があります。

関連する計画

- 名張市教育大綱
- 名張市スポーツ推進計画

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合	41.5%	48%
市民1人当たりの年間体育施設利用回数	3.8回	6回
総合型地域スポーツクラブの認定団体数	5団体	7団体

46

3 計画期間

2004（平成16）年度策定の「名張市スポーツ振興計画」及び現計画である「名張市スポーツ推進計画」の目標等実績を踏まえながら、本計画では2024（令和6）年度から2025（令和7）年度までの方向性及び具体的な取組内容を示します。

第2章 名張市のスポーツの現状と課題

2004（平成16）年度に「名張市スポーツ振興計画」を策定し、生涯スポーツ社会の実現に向けて事業に取り組んできました。これまでの間に総合型地域スポーツクラブの創設、競技力向上による多くの優秀選手及び指導者の輩出、総合体育館及び市民野球場の改修、武道交流館いきいき、市民ホッケー場の整備等を実施してきましたが、2020（令和2）年度から2023（令和5）年度初期までの間に経験した、新型コロナウイルス感染症感染拡大時の影響や、市民ニーズの多様化など、スポーツを取り巻く社会環境の変化により新たな取組が必要となっています。

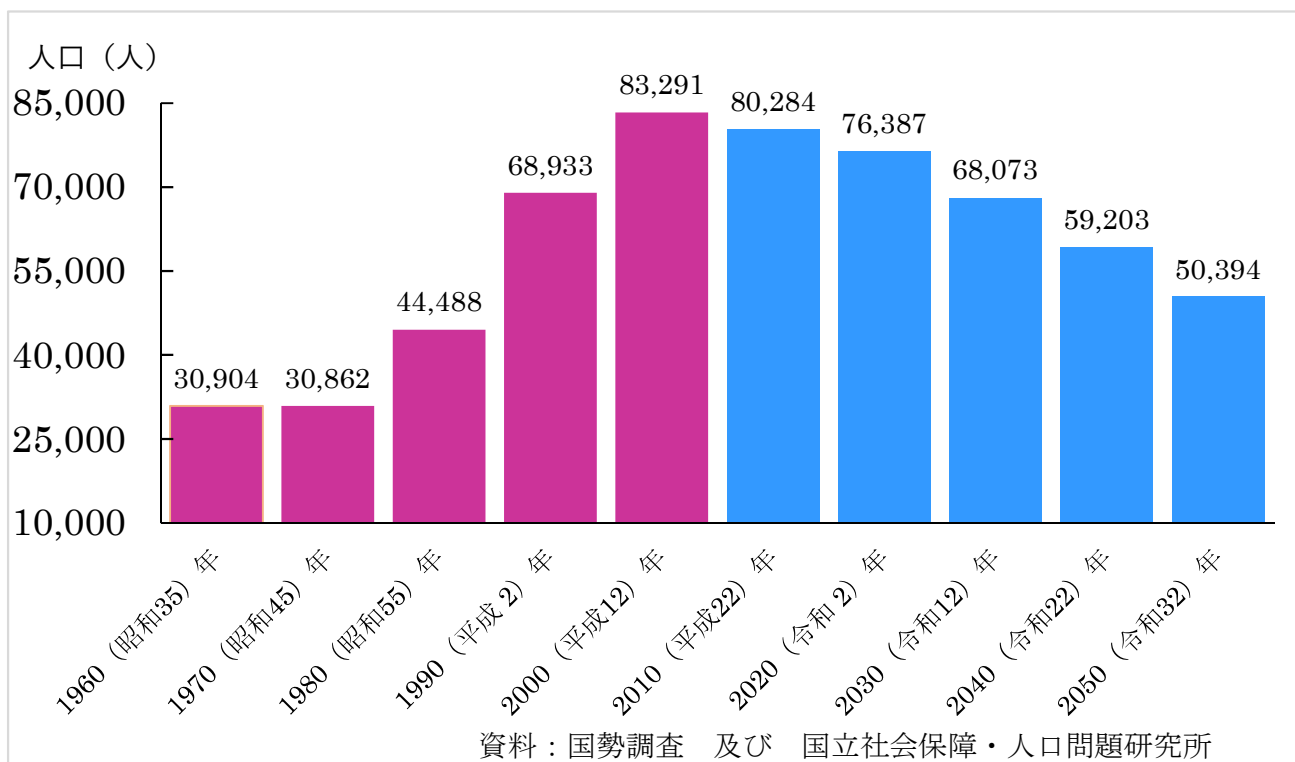
1 名張市の人口

関西圏のベッドタウンとして、1970（昭和45）年代後半から急増した本市の人口は、2000（平成12）年の83,291人をピークに減少傾向をたどっています。近年の傾向で推移した場合、今後も人口は減少を続けるものと見込まれています。

また、人口の増加とともに増え続けていた世帯数は、人口増加のピークを過ぎた今もなお増え続けており、核家族化が更に進行しているものと考えられます。

老年人口は、総人口が減少を続ける中で今後もしばらくは増加傾向にありますが、2025（令和7）年頃から減少すると推測されており、これまでのように若者の転出による生産年齢人口の減少が続いた場合は、全国平均の倍のスピードで高齢化が進むことが見込まれています。

《名張市人口の見通し》



2 スポーツ活動状況

(1) スポーツ施設・学校体育施設の利用状況

本市の体育施設は、1977（昭和52）年に開設した中央公園の整備に合わせて各種体育施設の建設が進み、以来本市のスポーツの拠点として市民に親しまれてきました。

また、2006（平成18）年には武道交流館いきいき、2019（令和元）年には市民ホッケー場が建設され、新たな市民のスポーツ活動の拠点として多くの方々に利用されています。市民ホッケー場においては、名張青峰高等学校ホッケー部の活動拠点として日々の部活動で利用しているほか、三重県ホッケー協会が施設規模に応じた大会を実施するなど、積極的な活動を行っており、2015（平成27）年4月に策定した「ホッケーのまち なばり」に関する基本計画を具体化した活動を行っています。

なお、市内小中学校の体育施設においては、学校開放事業により夜間及び休日等における地域及び各種団体の活動場所として引き続き多くの方々に利用されています。

一方で、中央公園内の体育施設は築後40年以上が経過し、老朽化により機能が低下している状況となっていることから、市民テニスコートの人工芝化や夜間照明等の電源ケーブルの取替など、必要な改修を計画的に行っています。

○総合体育館

(単位：人)

年 度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
利用者数	59,343	55,653	59,595	55,635	49,312	33,389	32,797	56,365

○体育施設 (武道交流館いきいきを含みます。)

(単位：人)

年 度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
利用者数	170,318	164,927	182,008	171,465	170,943	139,011	145,371	150,695

○学校体育施設

(単位：人)

年 度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
利用者数	138,869	139,364	136,127	121,700	125,323	140,105	110,250	117,075

※2020(令和2)年度及び2021(令和3)年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、施設の利用を中止した期間があります。

(2) スポーツイベント

本市では、競技スポーツを中心とした「市民総合体育大会」、レクリエーション種目を中心とした「レクスポフェア」、そしてこれら二つのスポーツイベントとともに、体育の日の関連行事として位置付けた「体育健康フェスタ」を市のスポーツイベントとし、多くの市民の参加によ

り開催します。また、名張市体育施設や名張市武道交流館いきいきの各指定管理者においても、様々な工夫を凝らしたスポーツイベントを展開しています。近年は、これらの取組や健康志向の高まりから高齢者の参加が多くなっています。

○市民総合体育大会参加者推移

(単位：人)

年 度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
スポーツ 協会	1,616	1,707	1,710	2,066	1,934	1,317	1,730	3,093
スポーツレク リエーション 協会	746	998	704	731	644	277	372	328
計	2,362	2,705	2,414	2,797	2,578	1,594	2,102	3,421

※スポーツ協会の競技種目の中で、参加チーム数しか把握できない種目があることから、競技構成人数で算出しています。

○レクスポフェア参加者推移

(単位：人)

年 度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
参加者数	500	500	400	500	500	500	500	1,000

※2022（令和4）年度より、スポーツフェスティバルと同日に開催しています。

○体育健康フェスタの参加者推移

(単位：人)

年 度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
参加者数	4,107	4,418	5,226	5,646	3,000	開催中止	開催中止	1,000

※2022（令和4）年度より、スポーツフェスティバルへ名称を変更し、レクスポフェアと同日に開催しています。

これらのスポーツイベントについては、市民の誰もが参加でき、楽しめる種目を準備しています。これらのイベントは、日頃運動をしていない人への啓発も兼ねています。競技種目によっては、参加者が固定化、高齢化する傾向にあり、延べ参加人員は増えていますが、実参加人数については減少傾向にあります。

このことから、スポーツの日常化を図るきっかけになるような工夫など、イベントの活性化が課題となっています。

（3）地域スポーツ

本市では、市民センターを基本的な単位とする15の地域で、住民の総意により設立された地域づくり組織がまちづくり活動を行っています。多くの地域では、地域づくり組織の主権による運動会などのスポーツ行事を実施され、交流・親睦を深めています。

しかし、地域によっては高齢化が進むとともに、子どもの数が減少し、地域の子ども会がなくなるなど、スポーツ行事が成り立たなくなってきた地域も出てきています。

このような状況の中で、地域のスポーツ活動をどのように活性化させていくのが課題となっています。

（4）総合型地域スポーツクラブ

生涯スポーツの推進と地域スポーツの普及を目的として、スポーツ協会などが中心となり、なばり総合型地域スポーツクラブが2005（平成17）年3月に設立されましたが、会員数の減少等により2013（平成25）年3月に解散しました。

しかしながら、総合型地域スポーツクラブの役割が見直され、新たなニーズに応えるため、2014（平成26）年度に「総合型地域スポーツクラブ創設支援指針」を策定し、現在、総

合型地域スポーツクラブの創設及び活動に対する支援を行っています。

(5) 中高年の健康・体力づくり

人生90年時代を迎えています。できるだけ長く健康で充実した人生を送ることは誰しもの願いです。このため、近年、中高年層を中心にウォーキングや健康体操、ゲートボールやグラウンドゴルフなどを通して健康づくりが盛んに行われています。

日常的に健康づくりに取り組み、体力の維持向上を図ることは、健康で充実した人生を送ることができることになるとともに、医療費の削減にもつながります。さらには、人と人との交流が少なくなる中で、スポーツや健康づくりを通じて仲間づくり、生きがいを進めることは重要です。

ところが、現状はスポーツの普及と健康づくりを進める所管が別々に事業を推進しており、十分連携して事業実施しているとは言えない状況であり、中高年の健康づくり・体力づくりをより効果的に進めていくための仕組みを検討していく必要があり、現在、各所管と連携を図りながら取り組んでいます。

(6) 子どものスポーツの推進

①子どもの基礎体力

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、1985（昭和60）年頃から現在まで低下傾向が続いています。現在の子どもの結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下回っています。一方、身長、体重など子どもの体格についても同様に比較すると、逆に親の世代を上回っています。

○身長・基礎的運動能力の比較

	男子		女子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	143.2	146.1(2.9)	145.5	147.9(2.4)
50m走 (秒)	8.8	8.9(△0.1)	9.0	9.3(△0.3)
ソフトボール投げ (m)	34.0	25.4(△8.6)	20.5	15.2(△5.3)

※親の世代は1985（昭和60）年度の11歳、今の子ども達は2022（令和4）年度の11歳

このように、体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力が低下していることを示しています。子どもの体力の低下は、将来的には生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こすことが懸念され、社会全体の活力が失われるという事態に発展しかねません。

子どもの体力、運動能力低下の要因については、少子化や集団での外遊びが減少していること等が指摘されています。子どもは、スポーツや外遊びによって体を動かす楽しさを知り、運動習慣を身に付けると同時に、メンタル面の成長や社会性など非常に多くのことを身に付けることができます。

本市には、子どもが継続的にスポーツをする場としてのスポーツ少年団や競技種目のスポーツクラブ等がありますが、近年、スポーツをする子どもとしない子どもの二極化が顕著になっています。

このような状況を改善するため、学校や家庭、地域が連携して、子どもが積極的に外遊びやスポーツ活動を行う機会や場を提供することが求められています。

②保育所（園）、幼稚園、学校等との連携

本市では、就学前の神経系の発達が著しい年代において、遊びやさまざまなスポーツを通して、基本的な動きを体験することによって健全な成長を促すために、現在、保育所（園）

や幼稚園等で、外部講師を迎えてサッカー教室やスポーツ教室を実施しています。また、各小学校では、放課後や土曜日に子どもが自由に遊びを通して体力づくりや仲間づくりを行う「放課後こども教室」や「放課後児童クラブ」が、地域の運営委員会の協力の下、実施されています。

また、中学校の部活動では、近年、取り上げられている働き方改革に関する課題のある中で、外部講師などと協力して、技術力の向上に励んでいます。

しかしながら、保育所（園）や幼稚園への派遣指導者や中学校の教員など、指導者の高齢化や指導技術面での課題等もあることから、今後は、スポーツ関係団体等と一層連携を密にして地域で学校を支援するシステムづくりの検討が必要です。

3 市民意識調査

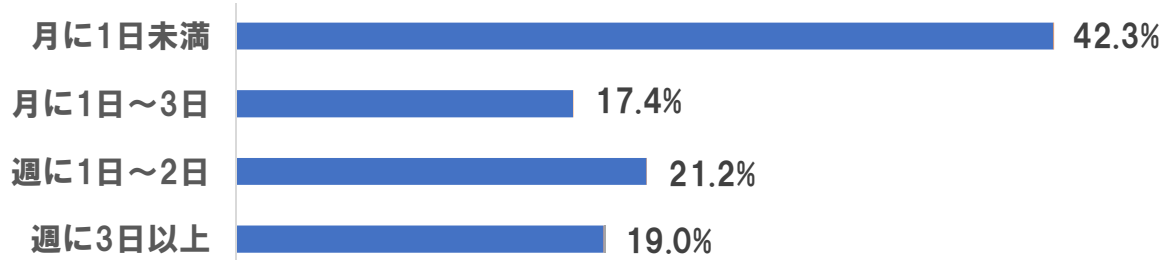
本市では、市民の意向や考え方を把握することを目的として、また、調査結果を総合計画の進捗管理及び行政評価などに活用するため、市民意識調査を実施しています。

その中の「生涯スポーツ」の質問項目として、「あなたは、どの程度スポーツに親しんでおられますか。（競技スポーツ以外にも健康の維持増進や体力づくりのためのウォーキングやレクリエーションスポーツを含みます。）」があり、2023年（令和5年）5月のアンケート結果としては、「約4割の人が、週に1日以上スポーツに取り組んでいる」という内容でした。

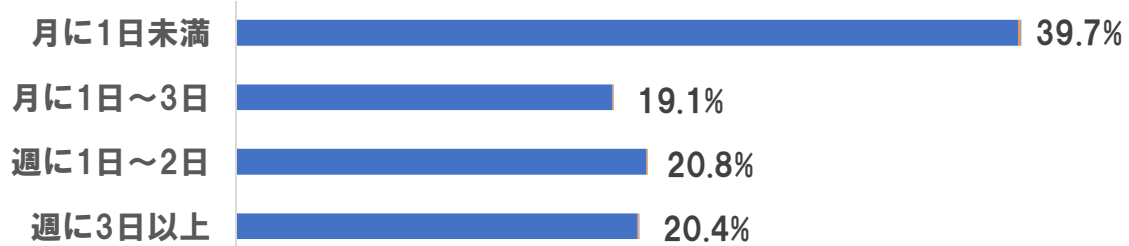
項目別で結果を見ると、男女別では同様の約4割の人が、また、年齢別では65歳以上では5割を超える人が、「週に1日以上スポーツに取り組んでいる」という結果となっています。

(設問) あなたは、どの程度スポーツに親しんでおられますか。(競技スポーツ以外にも健康の維持増進や体力づくりのためのウォーキングやレクリエーションスポーツを含みます。)

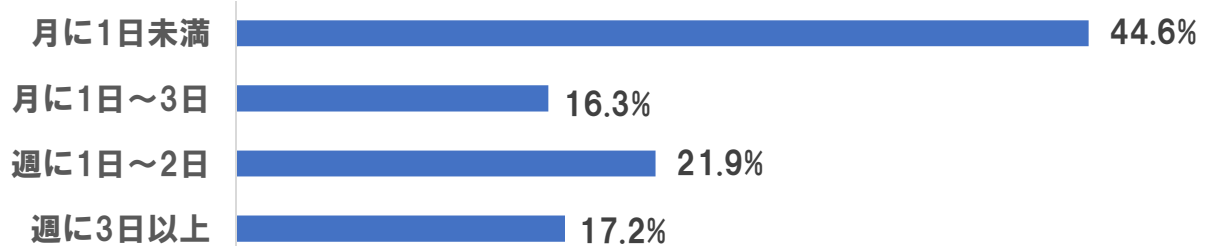
あなたは、どの程度スポーツに親しんでおられますか。(全体)



あなたは、どの程度スポーツに親しんでおられますか。(男性)



あなたは、どの程度スポーツに親しんでおられますか。(女性)



あなたは、どの程度スポーツに親しんでおられますか。(65歳以上)



<市民意識調査の概要>

【調査の目的】

市民の意向や考え方を把握することを目的とする。調査結果は、総合計画の進捗管理および行政評価などに活用する。

【調査方法】

- (1) 調査の対象： 市内に居住する満 18 歳以上の男女
- (2) 調査地区： 名張市全域
- (3) 調査数： 2,850 人
- (4) 抽出方法： 住民基本台帳に基づく無作為抽出
- (5) 調査方法： 郵送による配布・回収及び、WEB による回収
- (6) 調査期間： 2023 年 2 月 17 日～3 月 17 日

【回収結果】

- (1) 有効回収数： 1,121 人（うち WEB による回答数 273 人）
- (2) 有効回収率： 39.3 %

第3章 目標と取組

1 基本目標

健康、体力づくりは、もとよりスポーツ活動を通して得られる効果は多岐にわたり市民の日常生活においても大きな活力源となっています。

市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康ではつらつとした暮らしを営めることができるような環境をつくり上げるために、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。

基本目標を実現するため、(1) スポーツに親しむ環境づくり (2) 競技スポーツの推進 (3) 障害者スポーツの推進 (4) 学校体育・スポーツの充実の四つを基本方針として掲げ各種施策を計画的に取り組みます。

2 基本取組

(1) スポーツに親しむ環境づくり

①スポーツ活動の機会提供

いつでも、誰でも、いつまでも、スポーツに親しみ、継続して活動できる環境をつくるため、個々のニーズを把握し、それぞれのライフスタイルに応じた事業を展開します。また、インターネット等を活用し、広く情報発信します。

[取組内容]

- ・年齢や性別にかかわらず誰でも始められるニュースポーツ（ボッチャなど）を気軽に楽しめるよう、関係協会と連携して普及啓発を図ります。
- ・これまでに実施してきた様々なスポーツイベント等の内容を再検討し、魅力のある、参加しやすい催しを企画します。
- ・ウォーキングやジョギングを取り入れるなど、名張ひなち湖紅葉マラソン大会や青蓮寺湖

駅伝競走大会が参加者にとって、より魅力のある、価値の高いものとなるよう取り組みます。

- ・名張ひなち湖紅葉マラソンを契機に設置した距離看板を活用し、ウォーキングコースとして、市民の利用につなげていきます。
- ・市民がわかりやすく、興味を持てるよう、また、時代に応じた媒体を活用した情報発信を構築します。
- ・健康寿命を延伸するために、健康とスポーツの連携を図り、名張ケンコー！マイレージ制度を活用するなど、それぞれの特性を生かした事業を推進します。
- ・アーバンスポーツ（スケートボード・BMX（等））に関して、関係機関と連携し、指導者や競技者の人材発掘に努めます。
- ・eスポーツなど多様なスポーツに関して、関係機関と連携し、指導者や競技者の人材発掘に努めます。

eスポーツ(e s p o r t s)とは

「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称である。

(一般社団法人日本eスポーツ連合オフィシャルサイトより一部抜粋)

②総合型地域スポーツクラブの創設及び充実

幼児から高齢者までの誰もが生涯を通じ、それぞれの体力や年齢、技術、興味に応じて、身近にスポーツ活動ができる拠点として、中心的な役割を担う総合型地域スポーツクラブの各地域での創設を推進するとともに、総合型地域スポーツクラブが自主自立を基本としながら、安定的なクラブ運営が行われるよう必要な支援を行います。

[取組内容]

- ・地域での活動を推進するため、スポーツ推進委員と一層連携を図りながら総合型地域スポーツクラブの創設に努めます。
- ・総合型地域スポーツクラブ間の情報交換、並びに資質向上のため、連絡協議会を設立し、継続して活動できるための体制を構築します。
- ・総合型地域スポーツクラブ創設後、引き続き持続可能で安定したクラブ運営が図れるよう支援していきます。2022（令和4）年度においては、五つの総合型地域スポーツクラブがそれぞれの地域を中心に、様々な教室を通じ地域住民のスポーツ振興に寄与しています。また、2021（令和3）年11月に、設立準備委員会として、組織されたあかめ総合型地域スポーツクラブは、2022（令和4）年度から2023（令和5）年度までの準備期間を経て、2024（令和6）年度において、持続可能なクラブ運営が可能となるよう、2023（令和5）年度の設立に向けて取り組んでいます。引き続き、新たな総合型地域スポーツクラブ設立に向けた地域への機運向上等の支援を進めていきます。

③シニアスポーツの充実

健康増進や体力の維持向上を図るとともに、仲間づくりや生きがいをスポーツを通して実現できるよう、シニアスポーツの充実を図ります。

[取組内容]

- ・シニア世代が気軽に参加できるニュースポーツなどの機会を提供します。
- ・健康増進に関するスポーツの効用をアピールするとともに、関係機関と連携し事業を推進します。

④指導者の養成・確保

スポーツ技術を習得するため、また、適切に指導できる指導者の資質向上を図るため、スポーツ協会やスポーツレクリエーション協会と連携し、必要な取組を実施します。

[取組内容]

- ・指導者養成研修を定期的実施し、指導員の育成・資質向上に努めます。また、スポーツ協会やスポーツレクリエーション協会が実施する公認指導者養成事業への参加促進・支援に取り組みます。
- ・スポーツリーダーバンク機能の充実を図るため、新たな仕組みをつくり、スポーツ活動に対しての派遣が容易になるシステム構築に努めます。
- ・2017（平成29）年度において、シニアスポーツ大学を開講し、高齢者が健康な生活を継続、維持するために地域のシニア世代のスポーツリーダーの養成を行いました。今後引き続き、地域ごとに特色ある活動を行いながら全体として健康寿命を延ばすことにつながる取組に努めます。

⑤体育施設の整備充実

2021（令和3）年に開催が予定されていた三重とこわか国体に向け、市民ホッケー場や市民野球場など開催競技会場の整備に取り組みました。

さらには、国や三重県の財源を確保しながら、市民テニスコートの全面砂入り人工芝への改修工事や市総合体育館の防水改修工事や中央公園一帯の公共下水道の供用に合わせたトイレ改修工事を行いました。

今後も老朽化が進む体育施設の機能の維持・向上と安全性の確保を図るとともに、利用者ニーズの変化に対応した体育施設の整備・改修に努めます。

[取組内容]

- ・総合体育館のアリーナの安全確保に努めます。また、障害者にも使いやすい施設を目指します。
- ・市民陸上競技場は、2017（平成29）年4月にリニューアルし、トラック部分の全天候化（日本陸上競技連盟第4種公認競技場取得）及びインフィールド部分の人工芝生化（日

本サッカー協会公認)を行い、市民はもとより県内外からの利用者が増加したところです。本リニューアルに伴い、トラックにおきましては、本体育施設の指定管理者と連携する中で、利用者からのニーズに対応する形で個人利用の運用を開始しました。今後も、利用者の様々なニーズを把握し、効果効率的な施設運営及び適切な施設の維持管理に努めます。

- ・市内の体育施設の規模に応じた大会や合宿誘致を行うことで、スポーツツーリズムを通じた地域の更なる活性化を進めてまいります。
- ・市民プールは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から2020（令和2）年に閉鎖しています。現状では、設備の不具合等、施設全体の老朽化が著しく、2023（令和5）年においても再開ができない状況が続いています。市民プールが竣工した1969（昭和44）年当時の社会情勢や、利用者のニーズも変革しているため、市民プールの利活用に関して今後どのようにしていくべきか、在り方も含めた検討を行っていく必要があります。
- ・施設改修に必要な財源として、引き続き命名権や広告などの財源確保に努めています。具体的には、市民野球場、市民陸上競技場、市総合体育館、市民ホッケー場及び市民テニスコートにおいて、それぞれネーミングライツ（命名権）を導入し、また、2018（平成30）年度より、新たに市総合体育館内において、広告（看板）エリアを設置して、企業・団体等が広告スペースとして活用していただくことで得た収益を、体育施設等の修繕等に関する財源とし、利用者のサービスの向上を図ることとしています。また、引き続き、同様の取組を、多くの市民が利用し広告効果が見込まれる体育施設について計画的に実施していきます。

<注釈>ネーミングライツ（命名権）契約期間	2024（令和6）年4月1日現在
○マツヤマSSKアリーナ（市総合体育館）	2020（令和2）年4月1日 ～2025（令和7）年3月31日
○メイハンフィールド（市民陸上競技場）	2022（令和4）年4月1日 ～2027（令和9）年3月31日
○はなの里スタジアム（市民ホッケー場）	2020（令和2）年4月1日 ～2025（令和7）年3月31日
○メイハンスタジアム（名張市民野球場）	2023（令和5）年4月1日 ～2028（令和10）年3月31日
○TOA テニスの杜（市民テニスコート）	2023（令和5）年4月1日 ～2028（令和10）年3月31日

・体育施設全体として、照明施設のLED化に伴う改修を行います。

（2）競技スポーツの推進

①競技力の向上

競技者のレベル向上のためには、小・中・高等学校のジュニア世代からの育成が非常に重要であることから、子どもを対象としたスポーツ活動における指導者及び外部講師を確保・派遣できる体制づくりに取り組めます。また、幼少期からの競技スポーツへの興味・関心を更に高め、夢と感動を与えてくれるハイレベルの試合を観戦できる機会を創設します。

[取組内容]

・三重とこわか国体に向けたジュニア選手育成を行い、競技力向上に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催は中止となりました。今後は、三重とこわか国

体のレガシーとして整備した施設を活用し、本市で開催予定であった競技種目において、市民への普及と競技力向上を図るため、大会の誘致やイベントの開催に取り組みます。

- ・トップレベル競技の試合を実際に観戦することにより、市民に勇気や感動を与えるとともに、競技力向上につながることから、トッププレイヤーなどの招へいに取り組みます。
- ・スポーツ協会と連携し、スポーツ団体や小中学校のクラブ・部活動等に指導者を派遣するリーダーバンクの再構築に取り組みます。
- ・優秀な成績を収めた選手に対して優秀選手表彰及び激励金制度を継続します。
- ・2015（平成27）年4月に策定した「ホッケーのまち なばり」に関する基本計画を具体化した活動として、名張青峰高校ホッケー部や小中学生を対象としたスポーツ少年団が開設され、市民ホッケー場を活動拠点として活動しており、今後も三重県ホッケー協会の協力を得ながらジュニア世代の育成に取り組み競技力の向上に努めます。

②環境整備

スポーツ関係団体等との連携の下、一貫した指導体制の整備やスポーツ医・科学との連携体制の整備を図ります。また、県大会や東海大会が開催できる競技施設の整備に努め、競技力の一層の向上を図ります。

[取組内容]

- ・成長段階に応じた運動能力向上や、けがの少ない体格形成のため、スポーツ医等の協力を得るなど、総合的な視点からの研修会などを開催します。また、スポーツ団体や小中学校のクラブ・部活動に専門的な指導者を派遣するリーダーバンクの再構築に取り組みます。
- ・三重とこわか国体開催に向けた市民ホッケー場などの施設整備及び名張中央公園一帯のトイレ整備などの環境整備に取り組みました。三重とこわか国体の開催は中止となりましたが、引き続き、地域及び関係協会と連携した効率的な施設及び環境の整備に取り組んでいきます。

- ・ 体育施設における大会や合宿を行うに当たっては、スポーツツーリズムにつながるよう、地域や指定管理者及び関係協会などとの連携を図ります。また、現在までの「ホッケーのまち なばり」としての取組が評価され、2023（令和5）年11月には、日本ホッケー協会より「公式ホッケータウン」として認定を受けたところであり、今後、更なる競技の普及啓発はもとより、ホッケー競技を通じた地域の活性化に取り組みます。

（3）障害者スポーツの推進

①障害者スポーツの普及拡大

障害のある人もない人も、全ての市民がスポーツに親しめる機会を提供するとともに、障害者スポーツ競技を普及し、技術力の向上を目指します。

[取組内容]

- ・ 障害者が取り組めるスポーツ種目（サウンドテーブルテニス・ボッチャなど）を積極的に推進するとともに、福祉関係機関と連携し、指導者や競技者の人材発掘に努めます。また、技術力向上のための指導者の育成に取り組みます。
- ・ 市内で開催されているスポーツイベントや障害者スポーツ大会の開催において、障害のある人もない人も、全ての市民がスポーツを親しめる機会の提供に取り組みます。

②環境整備

誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整えるため、施設のユニバーサルデザインを意識し、誰でも気軽に利用できる環境整備に取り組みます。

[取組内容]

- ・ 既存の体育施設の屋外を含め、各施設のユニバーサルデザインに取り組み、誰もが気軽に利用できる施設整備を進めます。
- ・ 障害者スポーツ指導員などのサポート体制を充実し、誰もが安心してスポーツに親しめる環境整備に努めます。

(4) 学校体育・スポーツの充実

①体力向上の推進

体育の授業や部活動など、学校の教育活動を通じ、子どもが運動やスポーツの楽しさ、喜びを体験するとともに、子どもの体力・運動能力の向上を図ることにより、生涯にわたるスポーツライフの基礎を培うため、学校体育の一層の充実に努めます。

[取組内容]

- ・子どもが日常的に運動に親しめるよう、総合型地域スポーツクラブと連携し、運動機能の充実に努めます。
- ・部活動の地域移行を行う中で、小中学校の体育や部活動に専門的な人材を派遣できるよう、スポーツ指導者を育成します。
- ・新体力テストを実施し、子どもの体力に係る課題を明らかにし、効果的な指導を研究します。

②学校関係体育団体との連携

中学校体育連盟などの学校関係体育団体は、子どものスポーツ活動の基盤であるため、今後も情報共有を進めるなど、連携を密にしながら取組を支援します。

[取組内容]

- ・専門的な技術の習得、技術力向上を図るための外部講師を派遣するため、学校関係団体と協議を進めます。
- ・全国大会等への選手派遣に対して支援します。

以下の項目は、総合計画との整合を図っています。

(成果指標)

指標項目	現状値 2023 (令和5)年度	目標値 2026 (令和8)年度
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合【%】	40.2	48.0

◆市民意識調査において、「週1回以上スポーツに親しんでいる」と回答した人数／市民意識調査回答者の総数)×100

指標項目	現状値 2022 (令和4)年度	目標値 2026 (令和8)年度
市民1人当たりの年間体育施設利用回数【回】	3.8	6.0

◆体育施設年間利用回数／(住民基本台帳【全市】+外国人登録者数【全市】)

指標項目	現状値 2022 (令和4)年度	目標値 2026 (令和8)年度
総合型地域スポーツクラブの認定団体数【団体】	5.0	7.0

◆当該年度において認定されている団体数